

## 2016 年度学長方針

南山大学の皆さん

学長 ミカエル・カルマノ



### I. 基本方針

南山学園の基盤がキリスト教にあることを再確認するために、学長方針は、聖書またはカトリック教会の教義への言及から始まるのが通例となっています。今年、2015年5月24日に発表されたフランシスコ教皇の回勅「主に賛美—すべての生き物の共通な家の世話（care）について—」を用いようと思います。

教皇回勅で社会問題や環境問題が取りあげられるのは初めてではありませんが、「主に賛美」は、これまでとはやや異なる立場をとっています。環境問題は教会の教義の対象とされるべきではないと批判する人々も、このことをただちに認識しました。この回勅は、このような批判（教会の教義と科学研究を分離せよという要求）に、ある明確なイメージをもって対峙しています。「われわれの共通の家は、われわれが共に暮らす姉のようなものであり、腕を広げわれわれを抱きしめてくれる美しい母のようなものです。（中略）いま、この姉がわれわれに向かって泣き叫んでいます。神が彼女に与えたものをわれわれが無責任に利用し、乱用することで、彼女に危害が及んでいるからです。」

宗教の教義だけでは、たとえば、自然環境に生じている変化を説明することはできません。しかし、宗教の教義を通じて表現されているこの考え方は、自然環境をただ道具としてみなす見方に対して、常に疑問を投げかけてきました。この考え方は、われわれが知ること、目にすること、耳にすることすべての中心であるもの、つまり神の創造物としての地球はわれわれ人間による世話に委ねられているのだというイメージを示しているのです。

ここから見えてくるのは、南山の教育の本質を表すモットー、「人間の尊厳のために」の重要な一側面です。われわれ共通の家を世話したいと望み、かつ、その共通の家をよりよい場所にするために必要な知識や技能を身につけた人々がいて初めて、人間の尊厳は社会が不可欠だと認める要素となりうるのです。したがって、大学教育がもたらす最悪の結果は、自分自身のことしか考えない学生（その点では教員も）、つまり、教育を受けていながら「どうでもいい（I don't care）」と口にする人々を生み出すこ

とだということになるでしょう。

南山大学のようなカトリックの高等教育機関における教育・研究の中心には、全人類の共通の家である地球を世話することに、この学的共同体の構成員が積極的な役割を果たすことを求められているという認識があります。この挑戦とも言える使命に応える（そして真に国際的な社会を構築する）には、われわれの教育・研究をグローバル時代の諸問題に関連づける方法を探究することが求められます。そのなかには、われわれの共通の家を悩ますさまざまな問題の有望な解決策の探究に参加することを通じて、自分たちは違いを生み出せる－南山の特長（Nanzan Difference）－ということを示す機会を学生に与える、ということも含まれます。

昨年度の学長方針で、私は、常に「絶えざる自己改革」の対象であり続けるカリキュラムの要である共通教育プログラムの重要性を強調しました。学生と教員が専門領域を超えて一つの学的共同体となり、学習・教育・研究を通じて、どのようにわれわれの共通の家を世話するかを示すためには、人間の尊厳という中核的な価値をカリキュラムの不可欠な要素とすることが重要なのだということ、私は今年もふたたび強調したいと思います。

## Ⅱ. 最重要課題

### 1. 複合機能施設としての単一キャンパスの実現

本年度は、「One Campus Many Skills」を掲げるキャンパス統合がいよいよ最終段階に入ります。名古屋キャンパスを、南山大学の教育・研究の拠点、すなわち、情報化・国際化などに対応した様々な機能を持ったキャンパスとして整備します。さらに、名古屋キャンパスに新しい建物ができ、キャンパスが一つになることで、人的・物的資源に余裕ができるようになります。総合政策学部が移転することに留まらず、これを機に、余裕ができた人的・物的資源を活用して、学部・学科の垣根を一層低くし、一つとなるキャンパスで学生が自ら選択し、履修できる授業を増やすなどの改革を進めてもらいたいと思います。

少し極端な言い方かもしれませんが、「学ぶこと」は、「なぜ学ぶのか」に答えを見出せたとき、概ねその目標を達成しているのかもしれませんが。なぜなら、その答えを見つけたということは、学生が自分自身の中で何か問題を発見し、その問題を解決することが必要だということに気づけたということだからです。解決が必要だと気づくことができれば、解決のために必要な知識を習得・整理する姿勢が生まれ、自ずと成長を果たせることでしょう。

南山大学における学習は、このような学生自身の問題意識に基づく自主的な学習で

あってほしいと思います。学生が何に問題を見出し、何を解決しようとするかは、学生自身のキャリア設計とも深く関係することでしょう。学生には、自分のキャリアに貢献する授業は何かを自身で選択する必要があることを自覚してもらいたいと思います。南山大学は、学生が多様な学びを求めてきたとき、それに応えられる学習環境を整えなければなりません。「One Campus Many Skills」はそれによって実現されるものということをご認識してください。具体的な方策としては、あとで述べるようにクォーター制の導入、アクティブ・ラーニングの導入などが挙げられるでしょう。

基本方針とも関連して、共通教育の見直しも継続してもらいたいと思います。共通教育を単に専門教育のための準備として位置づけるのではなく、学生が自ら問題を発見し、自身の価値観を形成していけるように、適切な単位化を含めカリキュラムを編成してもらいたいと思います。

## 2. 国際教養学部の設置

2017年度設置予定の国際教養学部では、異文化の他者との相互理解を促進するとともに、グローバル化の急速な進展に対応するために、国・地域の枠を超え、多元的価値観を重視した国際教養学教育を行い、21世紀型市民として、文化間の摩擦により生じる様々な問題を理解・分析し、その解決に向けて他者と協働しながら積極的に行動できる人材の育成を目指します。本年度は、開設に向けて、受験生・高等学校・企業等への広報を含め、準備を進めてください。

また、国際教養学部では、目標とする人材育成のために、外国語学部との相互乗り入れ科目の積極的導入や主専攻・副専攻制の導入など、これまでの南山大学にない教育課程の編成を予定しています。これらの仕組みは、他の学部においても導入を検討する価値があると思います。自主的な学習にも関連し、学生自らが成長できる学習環境を整えてください。

## 3. さらなる国際化の推進

国際性をブランドとして掲げている南山大学として、この数年学長方針において最重要課題の一つとして大学の国際化を掲げてきました。昨年度策定された「南山大学国際化ビジョン」において、「グローバル社会において『個の力』を『世界の力』へと転換させる人材を輩出し、地域に根ざすと同時に世界に開かれた大学となることを標榜しつつ、2027年度に向けグランドデザインの達成を目指す」という目標が明示されました。ここでうたわれている人材は、人間の尊厳を尊重かつ推進できるとともに、国際的に通用する幅広い教養と、深い専門知識を身につけなくてはなりません。このような人材を輩出する大学となるという目標の達成に向け、交流協定締結先の拡

充・本学学生の海外留学経験者数の増加など国際化ビジョンに示された計画に従って、着々と取り組んでいかなければなりません。

国際化推進の成果の一つとして、昨年度に上智大学、上智大学短期大学部と共同申請をした文部科学省平成 27 年度「大学の世界展開力強化事業—中南米等との大学間交流形成支援—」による連携事業「人の移動と共生における調和と人間の尊厳を追求する課題解決型の教育交流プログラム」が採択されたことは、大変喜ばしいことでした。本プログラムの推進はもちろんですが、キャンパスの国際化推進は、本学にとり、本年度も重要な柱です。

本年度も学生の多様性ならびに流動性がさらに高まるような制度のあり方について引き続き検討してください。日本人学生の留学については、昨年度、各学部において学部の特色を生かした短期留学プログラムの開設が進められ、すべての学部生に海外留学の機会が提供される環境の整備が大きく進展しました。本年度は、すべての学部において学生のニーズに合わせた短期留学プログラムを整備するとともに、開設されたプログラムにおいては、充実した成果があげられるようその実施に鋭意尽力してください。その際に海外での学びが実質的なものになるように、共通教育科目または学科科目として単位化するようにお願いします。海外インターンシップの提供も学生にとって魅力あるプログラムになるでしょう。

国際科目群の制度を導入して 5 年目となります。現在 60 科目ほど開講され、日本人学生同士や留学生と外国語でディスカッションをすることで知的交流が深化するなどの成果も出ていますが、将来的には 100 科目程度になるように全学的に取り組んでください。国際科目群が多く開講されると、それだけ世界からの留学生に対して本学の魅力が増すこととなります。また、海外からの留学生への奨学金支給条件として受け入れ大学の英語による開講科目数が基準とされる例もあります。開講科目数が 100 科目程度となれば、アジア・キリスト教大学協会 (ACUCA) からの奨学金による留学生の増加も見込まれ、キャンパスの国際化に大きく寄与することになるでしょう。

学部への留学生の受け入れに関しては、これまで主に総合政策学部が担ってきました。2017 年度には総合政策学部が名古屋キャンパスに移転しますので、これを機会に学生同士の交流がさらに盛んになるように、各学部で積極的に留学生を受け入れる制度を検討してください。留学生が名古屋キャンパスの近郊に安心かつ便利に居住できるように、留学生用宿舎の確保についても検討してください。

留学生別科 (CJS) は、昨年度創立 40 周年を迎えました。修了生が世界各地で活躍しており、その教育に対して国際的に高い評価を受けています。その伝統をさらに発展させる方策を検討してください。現在、留学生別科の学生は南山大学の定員に含まれていませんが、留学生別科の位置づけを見直すことで、文字通り南山大学の学生の一

員とすることが可能かを検討してください。これまで留学生別科のみを受け皿としてきた交換留学生の学部・研究科での受け入れについてもあわせて検討をお願いします。

海外の教育機関や企業との連携やネットワークの拡充にも引き続き取り組んでいきます。昨年度末には、インドネシア共和国では初めてとなる留学生推薦協定をシュラディカラ高等学校（SMAK Syuradikara Ende）と締結しましたが、今後も世界各地のカトリック系教育機関との連携を加速していきます。このほか、日本人学生、留学生双方ともにダブル・ディグリーを取得できるような制度の導入を視野に入れた海外の大学との単位互換制度の構築も、検討されるべき課題です。学部生だけでなく、大学院生や教員間の国際交流も重要です。大学院生も積極的に海外の大学へ留学できるような方策も検討してください。教員の国際交流においては、フィリピン共和国のサン・カルロス大学との教員交換プログラムと同様のプログラムを他大学と開設できないか、さらに積極的に検討してください。

### Ⅲ. 将来構想

将来構想に関しては、南山大学グランドデザインが、その基本的な考え方であることには変わりはありません。グランドデザインで謳われた「世界から選ばれ世界に人材を輩出している大学になること」を目指し、必要な組織再編、キャンパス整備を本年度も継続していきます。

#### 1. 組織再編

国際教養学部の設置と並行して、2017年度に外国語学部では、定員を変更するとともに各学科の特徴がより明確となるように専攻制を導入する計画です。各専攻で、学生のニーズに合った授業が提供されるように準備を進めてください。

完成年度を迎えていない理工学部・理工学研究科・社会科学研究科を含め、全学部・学科・研究科には「絶えざる自己改革」の精神に基づき、組織のあり方について、常により良いものはないか、模索・検討を行ってもらいたいと思います。

短期大学部と大学院ビジネス研究科ビジネス専攻が2017年度に募集停止をします。これらの学部・研究科で培った教育の伝統は、国際教養学部および社会科学研究科をはじめとする南山大学の教育に継承されます。短期大学部とビジネス研究科ビジネス専攻の学生が卒業・修了するまでは、その教育はもちろんのこと、就職や進路決定においても、大学全体で支援していきます。

また、本年度は、大学院の充実にこれまで以上に注力してもらいたいと思います。特に博士後期課程の充実が重要な課題です。各研究科においては、既存の教授方法や

学問テーマにとらわれず、海外を含め社会のニーズに応える大学院教育を目指して検討を行ってください。例えば、日本の文化・社会制度・経済・科学技術に関する教育を日本語で提供することは、海外からの留学生にとって魅力的な内容となることでしょう。法務研究科については、本年度も志願者獲得のためのさらなる努力をお願いします。

本年度から 2017 年度にかけて、各種センターの新設も予定しています。まず、本年度、南山大学の情報通信技術 (ICT) 環境の整備を主導し、全学的な情報教育、特に情報倫理教育を担う情報センターが設置されました。情報センターは、これらの役割が十分に果たせるようにしてください。

そのほかにも、2017 年度には、国際センター、保健センター、外国語教育センター（仮称）、体育教育センター（仮称）の設置を計画しています。国際センターについては、その重要性から、これまでも多くの議論を重ねてきましたが、留学生や短期留学プログラムが増加する中で、国際センターに要求される機能はますます多岐に、そして高度になっています。本年度も、その開設に向けて、迅速かつ慎重に準備を進めてください。

保健センターは、グランドデザインにおいて「ユニバーサル受け入れ」が指針の一つであることや、社会一般にも、学習に限らず学生生活全般において支援の必要な学生がいることが広く認知される中で、南山大学においても必要とされる支援が確実に行き渡るように、これまでの保健室による学生支援体制を集約・強化するものです。グランドデザインの実現に向けて鋭意準備を進めてください。

外国語教育センターは、共通教育における英語ならびに初習外国語教育、外国人留学生に対する日本語教育も含め、南山大学の外国語教育にかかる運営体制について、これまでの体制を見直し、新たにセンターとして発足します。運営体制の一元化とそれによる効率化によって、より質の高い教育の提供を図ります。外国語教育は、南山ブランドの重要な構成要素です。その目的が果たせるように準備を進めてください。

体育教育センターは、体育科目を担当する教員が協働し、南山大学における体育科目が、円滑に、そして効果的に運営されるように体制を整えることを目的に設置されるものです。こちらも、その目的が達成されるように準備を進めてください。

## 2. キャンパス整備

本年度は、キャンパス統合に向けた第 2 期工事が継続されます。9 月には部室や音楽室を併設した新食堂棟が完成し、食に関して学生生活の充実が図られるだけでなく、学生の新たな交流の場として機能することを期待しています。2017 年 2 月には、新たな研究・教室棟も完成予定です。これにより最新の設備を持った教室がさらに増える

こととなります。それらを有効活用し、最重要課題で挙げた学習環境を設備の面から支える施設となるように準備を進めてください。これらの工事に伴い、制限を受ける区域もありますが、安全には万全を期しながら、教育研究環境の維持に努めてください。

本年度には、第3期工事に向けて、具体的に計画を詰めていく必要があります。レームンド設計の伝統を引き継ぎながら、必要な改修を進めていきます。特にF、G、H、J、K、M棟が対象となるでしょう。また、南山大学が目指すICT環境として、BYOD(Bring Your Own Device)を実現するためには、無線LANの整備が欠かせません。すでに一部の施設では無線LANの使用が可能となっていますが、それを全学に提供できるように情報センターを中心に計画的に無線LANの整備を進めます。

図書館は、南山大学にとって重要な施設の一つです。学生・教員をはじめとする利用者の利便性の一層の向上を図るために図書館のシステムを刷新します。

本年度末にキャンパス統合が完了するまで、瀬戸キャンパスについても十分配慮し、その教育・研究環境が損なわれることのないように努めます。

## IV. 教育・研究

### 1. クォーター制導入に向けて

クォーター制は、科目の開講期間を短くすることで、カリキュラムの自由度を上げ、広い教養を身に付ける共通教育科目から、深く専門的な知識を身につける専門科目までを柔軟に配置することを可能にします。これにより、留学を含め、学生がより自立的に自身の学習を設計できるようになります。クォーター制導入については、かねてより議論を重ねてもらっていますが、クォーター制の本質を見失わないように全学部・学科・研究科においてカリキュラムの見直しを行ってください。さらにカリキュラムの可視化についての検討も進めてください。

クォーター制導入まであと1年であることを見据えた取り組みが必要です。クォーター制導入は、大学の国際化と教育・研究の質の向上をもたらすための基盤改革であり、大学のさまざまな将来構想の実現に資する大改革です。このことを全ての構成員が認識し、クォーター制への移行が円滑に進むよう、精力的な準備をお願いします。

クォーター制による学習効果の向上、自主的・能動的な学びや留学の推進といったメリットを学生が享受するには、インターンシップやサービス・ラーニングを採り入れた授業科目の開設や多様な留学プログラムの提供など、学生の学びを促すための選択肢を広げることが求められます。留学やボランティアに参加した学生のフォローアップのための短期集中型科目の開設等についても検討してください。学生が自ら学び

たいことを主体的に学ぶ機会を提供することは、クォーター制導入の趣旨にかなうものです。

クォーター制は、学生の学習環境の面でのメリットを生むだけでなく、教員の研究時間の確保につながるものでなければなりません。クォーター制導入に向けた取り組みにおいては、教育と研究のバランスを考える視点を忘れてはなりません。

## 2. アクティブ・ラーニングの積極的導入

学生の自主的・能動的な学びを促すためには、教授方法についても変革していくことが必要です。具体的には、アクティブ・ラーニングを積極的に採り入れることが重要です。昨年度、全学部・学科において、アクティブ・ラーニングを採り入れた授業の実施状況の現状把握が行われました。本年度はこれを踏まえ、クォーター制に対応したアクティブ・ラーニングの積極的な導入について検討してください。

アクティブ・ラーニングは、各教員が担当する個々の授業の改善・工夫のほか、インターンシップやサービス・ラーニングを採り入れた授業の開設によっても実現可能です。クォーター制のもとで奨励されることとなる第2クォーターでのインターンシップやサービス・ラーニングのプログラムならびに課題解決型授業の開設など、クォーター制のメリットを最大限発揮できるカリキュラムの整備に向けて、各学部・学科で引き続き検討してください。そして各教員においては、自らの授業運営の工夫・改善の努力を惜しむことなく、積極的な姿勢で臨んでください。

教育に関する諸改革の推進には、ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動も不可欠です。各学部・学科・研究科においては、クォーター制の導入をはじめとする教育改革に対する教員の一層の意識向上を図るために、魅力あるFD企画の立案・実施にも取り組んでください。

## 3. 他大学との協働

国内外の大学との連携の強化は、引き続き重要です。国内においては特に、豊田工業大学と上智大学との関係をより一層深めていきます。豊田工業大学とは、これまで行われてきた単位互換、図書館の相互利用、連携講演会による協働を継続し発展させていきます。これらの既存の取り組みに加え、科学研究費等の外部資金を用いた共同研究プロジェクトの立ち上げなど、研究面でのさらなる関係の強化についても積極的に検討してください。上智大学とは、これまで行われてきた上南戦などの深い協力関係に加え、昨秋に採択された「大学の世界展開力強化事業－中南米等との大学間交流形成支援－」による連携事業を協働して推進していくことが関係の深化につながります。このプログラムが掲げる国際高等教育連携交流モデルの確立に向けて、事業計画



に沿った着実な実施が行われるよう尽力してください。

また、単位互換による連携も重要です。クォーター制の目的が十分に果たされるよう、学生に多様な学びの選択肢を提供する観点から、これまでの愛知学長懇話会・豊田工業大学・大学コンソーシアムせとによる単位互換を継続し、さらなる発展を模索していきます。このほか、他大学との連携を深める方策としての国内留学も、有意義な選択肢の一つとして検討に値するでしょう。こうした学生の自主的・能動的な学びの推進に向けた多様な方策のあり方についても、検討を進めてください。

国内外のカトリック系教育機関との連携強化は、カトリック大学としての南山大学のアイデンティティに深く関わるものです。フィリピン共和国のサン・カルロス大学とは教員交換プログラムを実施し、東南・東アジアカトリック大学連盟（ASEACCU）会議には、毎年、本学の学生や教員が参加していますが、これらの取り組みを継続し、さらなる発展を目指してください。そして今後も、国内外のカトリック大学との連携強化について、各学部・研究科において積極的な検討を行ってください。

「南山大学グランドデザイン」に掲げられた教育目標である、「世界から選ばれ世界に人材を輩出している大学になること」にとって、海外諸大学との連携は言うまでもなく必要不可欠なものです。大韓民国の韓南（ハンナン）大学、西江（ソガン）大学校と本学法学部・法務研究科との間で行っている学生交流・学術交流に加えて、すでに個々の教員が持つ海外の大学・研究機関との関係を大学として支援し、これらを組織的な交流へとつなげることも積極的に検討してください。

#### 4. 3つのポリシーの見直し

クォーター制に対応するためのカリキュラムの再編は、各学部・学科・研究科・専攻がこれまで掲げてきた3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の内容にも及ぶほどの大がかりな改革になるでしょう。このため、大学として3つのポリシーの策定を進めるとともに、各学部・学科・研究科・専攻においても、新たに提供しようとするカリキュラムの考え方との整合性を考慮して、3つのポリシーの見直しについて検討を始めてください。

#### 5. 科学研究費等の積極的獲得

南山大学が研究機関としても優れた大学であるために、研究活動の活性化と研究成果の社会への還元が欠かせません。そのために、科学研究費等の外部資金の獲得を目指して、一層の努力をお願いします。本年度も研究活動に携わるすべての構成員が、科学研究費などの様々な外部資金への申請の可能性を広く検討し、これらの獲得を目指して取り組んでください。科学研究費に代表されるような文部科学省による外部資

金のほか、他省庁・企業・法人等によって審査・交付される資金など、多様な競争的外部資金の獲得のために、学部・研究科をはじめとする各単位において申請の可能性を検討し、準備を進めてください。現在、学内の一部の研究費の配分は、競争的外部資金の申請と獲得に連動したのになっています。それは、外部資金の申請と獲得を奨励するためでした。今後は研究活動に携わるすべての構成員が外部資金の獲得を目指してください。そのために、学内の研究費の配分方針をより外部資金の申請と獲得に連動するように変更することを検討してください。加えて、外部資金獲得者の間接業務の負担を軽減するために、支援体制の充実にさらに努めてください。

研究者には研究活動に伴う様々な社会的責任があることも忘れてはなりません。研究活動等における不正行為防止を徹底し、研究倫理に則った研究活動を進めてください。

## 6. 学生支援の充実

日々の授業履修や単位修得、課外活動、就職活動など、大学が学生生活全般にわたって担うべき学生支援のニーズは、近年、ますます高まっています。また昨年度には「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が施行され、広く学校教育における合理的配慮に努めるべきこととされました。「人間の尊厳のために」を教育モットーとし、「ユニバーサル受け入れ」を掲げる大学として、障がいのある学生への支援は重要です。身体的な面での支援や精神的な障がいのある学生への支援のほか、学生が抱える多様な支援ニーズに応えるよう進めていく必要があります。このような学生への支援体制を充実させる一環として、保健センターの設置に向けた準備を進め、2017年度の設置を目指します。また各学部・研究科においては、教務課・学生課と連携・協力し、より一層の学生支援が行われるようにお願いします。このほか、留学生に対する学習面や生活面での支援などの多様な支援についても、さらなる充実に努めてください。

今日、経済的困難を抱える学生をめぐる問題が深刻な社会問題となっています。限られた予算の中での支援には制約もありますが、できる限り学生に経済的支援を行っていきます。具体的には、昨年度まで実施してきた、東日本大震災による被災世帯の受験生を対象とした入学検定料免除・学生納入金減免の特例措置のほか、経済的困難を抱えながらも勉学意欲を持ち、成果をあげている学生への各種奨学金による経済的支援を、引き続き実施してまいります。

## V. 社会貢献と連携

## 1. 社会貢献

社会人を対象とする教育への需要が高まる中、大学は、地域におけるこれらの需要に応え、地域に支えられた教育機関でなければなりません。そのための取り組みとして、エクステンション・カレッジのさらなる充実を図ります。その際、エクステンション・カレッジにおけるオンライン教育の導入についても検討してください。

また人類学博物館は、地域と大学とを結ぶ場としての役割を担ってきました。本年度も地域に開かれた博物館として、フィールドワークや講演会などを実施するとともに、学外の諸機関との連携を進めて魅力的な企画を実現してください。

## 2. 産学官連携

「南山大学産学官連携ポリシー」に従い、産学官連携を積極的に推進し、本学の教育・研究活動において得られた知の成果を広く社会に還元し、様々な社会的役割を持つ人々が集い、知の協働が生まれる拠点としての役割を果たしていきます。例えば、名古屋銀行との協定によるインターンシッププログラム、財務省東海財務局との覚書締結による経済学部での寄附講座開設など、学外他機関との連携による教育内容の充実が行われてきましたが、今後も一層の充実を図ります。また研究面では、これまで行われてきた他大学・企業・国・地方自治体・公益財団法人などとの共同研究や受託研究による連携を継続し、新たな連携も模索していきます。

## 3. 災害時の危機管理体制の整備

災害時において学生や教職員の安全を確保するため、本年度も引き続き危機管理体制の整備をしていきます。また災害時の避難場所の提供など、大学が地域の中で役割を果たすことも重要です。すでに本学体育館や学内プールが名古屋市や昭和消防署から災害時の関連施設として指定され、名古屋第二赤十字病院とは名古屋キャンパスグラウンドを緊急災害時のヘリポートおよび患者搬送に付随する業務の実施場所として提供する取り決めをし、学生用非常食や防災用品の備蓄を計画的に進めてきました。今後も、地域に根ざした大学として地域全体の危機管理対策を考え、地域の方々との連携を進めていきます。

# VI. 入試・就職

## 1. 入試

2016 年度の一般入試、全学統一入試（個別学力試験型、センター併用型）、センター利用入試（前期 3 教科型・5 教科型・後期）をあわせた延べ志願者数は、昨年度の

24,609名に比べて1,164名増の25,773名でした。しかし、志願者を減らした学科もあります。今後も18歳人口は減少を続け、学生募集が厳しさを増すことは周知のとおりです。こうした状況を踏まえ、適正な対応をとり続けることが重要です。志願者を確保し、そのレベルを維持・向上させるために最も重要なのは、各学部・学科が提供する魅力的なプログラムであることに変わりはありません。クォーター制に向けて現在検討されているカリキュラムの見直しは、何よりもこのことを念頭に置いて行われなければなりません。

2017年度に予定されている国際教養学部の設置や外国語学部における専攻制導入に伴い、入試制度にも大きな変更が生じます。法人合併に伴って、学園内推薦対象校に聖園女学院高等学校が加わります。これらの変更にも適切に対処できるよう、細心の注意を払い慎重に準備を進めてください。

また、クォーター制導入に合わせて、外国人留学生や社会人を含む多様な学生の受け入れを進めることにより大学院の活性化を目指すためには、大学院に9月入学の制度を採り入れることが有効です。各研究科においては、9月入学の実現に向け、入試や研究指導のあり方などの検討を行ってください。

多様な学生の受け入れを進めるには、外部試験の活用をより積極的に検討することや、真の学力をより適切にはかることができる新たな選抜方法についても検討を続けなければなりません。入試制度もまた「絶えざる自己改革」の対象であることを忘れないでください。

## 2. 就職

2015年度は、大卒有効求人倍率が前年度よりも若干増加しており、すでに2014年度の時点で大幅な増加が見られたことを踏まえると、就職状況はこのところ改善傾向にあります。この状況を活かして、本年度も内定率100%を目指して努力してください。そのために、キャリアサポート委員会や就職委員会を中心に、教職センターや南山エクステンション・カレッジ委員会、各学部・学科・研究科とも連携しながら、引き続き充実した就職支援を進めていきます。2017年3月卒業予定者の就職活動の開始時期が再び変更されることを踏まえ、そのための対応もお願いします。また、2017年度のキャンパス統合に合わせたキャリア支援体制の整備を引き続き進めるとともに、クォーター制導入に伴い、キャリア教育においても学生の自主性・能動性を促す工夫がなされるようお願いします。

## Ⅶ. 広報

大学の情報発信は、大学のブランディングに限らず、社会貢献やステークホルダーとのつながりといった様々な観点からも、きわめて重要なものとなっています。本年度はとりわけ 2017 年度に予定している国際教養学部の設置やキャンパス統合、外国語学部の定員変更と専攻制導入などについて積極的に情報発信を行ってください。こうした情報発信のために、Facebook や YouTube、スマートフォンアプリなどの広報手段も活用するなど、多様な媒体による戦略的な広報を進めてください。

Web ページについては、戦略的な広報の観点から、各学部・学科・研究科単位での Web ページの適切な活用に努めてください。さらに海外を含めた同窓会や後援会との連携も、引き続き強化していくことが求められます。

すべての構成員が、大学の広報の一端を担っていることを自覚してください。学生の安定的な確保やさらなる外部資金の獲得、寄附金の受け入れなどの成果を上げるためにも、広報活動は重要な要素です。魅力ある南山大学のアピールを、常に心がけてください。現在行っている将来構想募金をはじめとするさまざまな募金活動においても、広報が重要な役割を果たします。すべての構成員の協力を引き続きお願いします。